

新幹線効果で温泉街浮上

和倉、山中、山代、片山津が初の上昇

観光客の土産消費拡大

22日に発表された公示地価では、北陸新幹線開業による観光客の増加を受け、加賀、能登の温泉街で商業地の地価が初めてプラスに転じた。七尾市和倉温泉では、「街中を散策する人が増え、土産品などの消費につながっている」との声が上がっており、交流人口の拡大が新規出店の意欲を後押ししているとみられる。

公示地価

山中温泉はプラス1・8%、山代温泉はプラス1・7%、片山津温泉がプラス1・2%で、いずれも調査地点の設定以来、初めてプラスに転じた。七尾市和倉町（和倉温泉）はプラス2%、観光地では輪島市朝市通りの河井町がプラス1・4%だった。



観光客が行き交う山代温泉（加賀市）

【一面に本記】

和倉温泉では昨年4月、今年2月末の入り込み客数が前年同期比で割増の93万7532人となり、11年ぶりに年間100万人を突破した。地価を押し上げる原動力となった交流人口の拡大は、各地で近年にない伸びを示す。

県内では、富山地方鉄道宇奈月温泉駅前にある宇奈月温泉桃原の商業地が1平方メートル当たり5万3500円と前年の0・4%マイナスから1・9%のプラスに転じた。宇奈月地域の商業地がプラスに転じたのは、合併前の1995（平成7）年に調査地点が設けられて以来初めて

する見通しだ。和倉温泉観光協会的小田孝信会長は、金沢を観光してからJR七尾線の特急や観光列車「花嫁のれん」で和倉を訪れる人が増えたことを挙げ、「駅を中心に活気が生まれている」と指摘した。七尾市観光協会の濱元会長は、「能越自動車道七尾氷見道路と新幹線の相乗効果が出ている」と話す。

山代、片山津、山中温泉を中心とした温泉地の入り込み客数（昨年4～12月）も前年同期比15・4%増となった。山代温泉では旅館2軒が新装オープンしたほか、空き店舗への新規出店があった。山代温泉観光協会の担当者は「予約が取りづらいために足が遠のいていた関西、中京圏の客が戻ることと期待する」と述べ、片山津温泉観光協会も「7年後の敦賀延伸まで好調を維持したい」と期待する。

温泉 宇奈月 初のプラス

新幹線駅立地による観光客増が影響した。宇奈月温泉の宿泊客数は昨年33万5千人に上り、前年より29%増加した。トロッコ電車を利用する観光客も増え、駅前にある土産物店の需要が活発化し、地価を押し上げたと思われる。

一方、サービス全般で人手確保が難問となっている。旅館では従業員の確保のため時給を上げる動きが出ており、時給1千円を超える例も増えた。輪島の朝市3割増輪島朝市への昨年1年間入り込み客数は前年比30%増の80万4800人と続いた。朝市通り（本町通り）には、午後でも観光客が立ち、商店街各店の売り上げも伸びた。本町商店街興組合によると、空き店舗

コマツハウス子会社化

日成ビルド 受注機会の拡大に
日成ビルド工業（金沢市）は22日、全国でプレハブハウスやユニットハウスの製造、販売、レンタルを手掛けるコマツハウス（東京）の株式を取得し、子会社化する

することを決めた。両社が持つ販路や商品、サービスなどを相互活用することで、受注機会の拡大につながる。コマツハウスはコマツのグループ会社で、大手セネコンと多数の取引実績がある。2015年3月期の売上高は163億7600万円。日成ビルド工業は4月28日、コマツからコマツハウスの全株式の85%にあたる1186万6千株を56億1千万円で取得し、連結子

が出ておらずに借り手が現れる状況だという。春の大型連休には朝市入り口にNHK連続テレビ小説「まれ」の舞台セットを展示した休憩施設がオープンする予定で、同組合の小浦克彦理事長は「官民挙げて活気を保っていきたい」と語った。

業績予想を修正
利益が最高見通し
エヌアイシ
エヌアイシ・オートテック